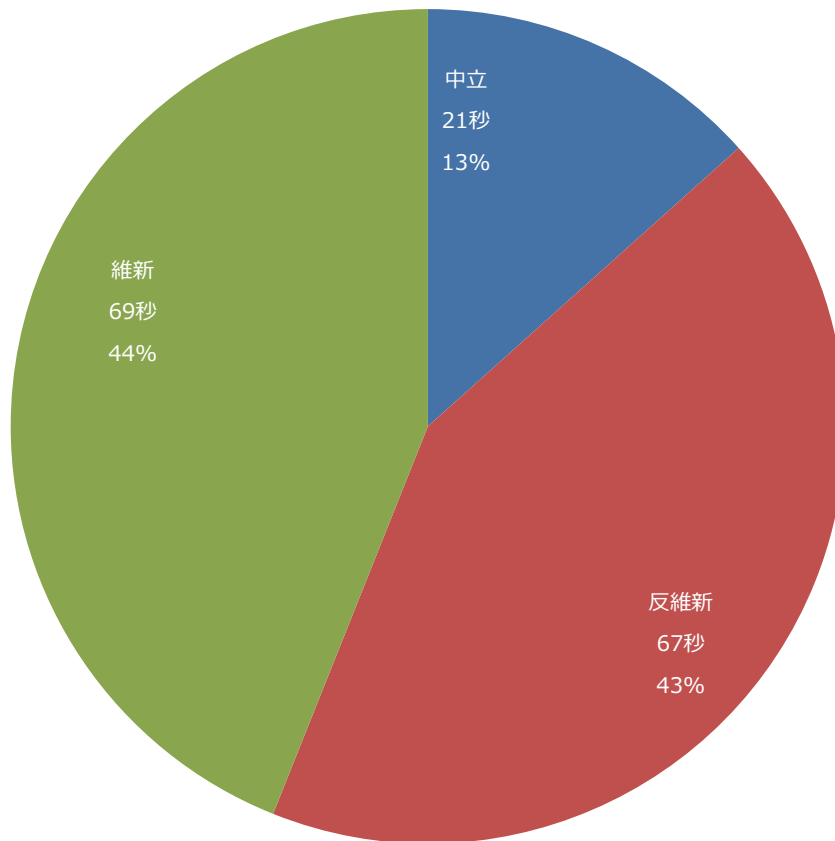


TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年4月6日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子 横山朋未（CBC テレビ記者、豚コレラを取材）		
検証テーマ：大阪のダブル選挙、オープニング、ゴーン事件、ウクライナとロシア 北朝鮮の自然博物館、リビアの政情不安 【特集】外国人材をどう活かすのか 【特集】豚コレラ～感染拡大の実態		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・大阪のダブル選挙 ・オープニング ・ゴーン事件 ・ウクライナとロシア ・昨年10月の脱線事故で台湾鉄道が車両メーカーに賠償を求める ・【平成最後の桜】鳥取県桜のトンネル ・広島豪雨の被災者を癒やす10匹の犬 ・釧路の石炭輸送鉄道が94年の歴史に幕を下ろす ・北朝鮮の自然博物館 ・リビアの政情不安 ・関東で火事多発 ・【特集】外国人材をどう活かすのか ・【特集】豚コレラ～感染拡大の実態 ・スポーツ報道 		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・大阪のダブル選挙：結論→特に問題なし 大阪のダブル選挙について取り上げられていた。このトピックについて当てられた時間は157秒で、時間配分及び比率は以下の通りであった。		



それぞれの候補者とコメントが取り上げられており、放送法上は特に問題は見られなかった。ただし、自民公明と大阪維新以外の政党の対応については触れられていなかった。

・ オープニング：結論→特に問題なし

オープニングで金平キャスターが「総理と副総理の地元をつなぐ道路建設を巡って、忖度しますと発言した塚田国交副大臣が辞任しましたが、後味がよくありません。結局真相がさっぱりわかっていないからです。まさか、もう彼はやめたんだからそのところは忖度しなさい、とまでは思っていないでしょうか。」とコメントしていた。このシーンに当てられた時間は 18 秒だった。なお、塚田発言については今日の放送ではこのコメント以外では取り上げられていなかったが、放送法上は特に問題は見られなかった。

・ ゴーン事件：結論→特に問題なし

日産側の資金がゴーン容疑者側に還流されていたことを記録したメールを東京地検特捜部が入手していたことがわかったとのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 90 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・ ウクライナとロシア：特に問題なし

ウクライナの親ロシア派支配地域の紛争地帯についての取材の VTR が以下に朱記したように取り上げられて

いた。

日下部正樹「ウクライナの大統領選挙は現職とコメディ俳優による決選投票が 21 日行われます、争点の 1 つは東部の親ロシア派支配地域との紛争をどう収集していくかです。その紛争地帯に JNN のカメラが入りました。」

"ナレ「2014 年春、ロシアが強行したクリミア編入、歓喜に包まれたロシア系住民の熱気はウクライナ東部、ドネツク州などの独立気運に繋がりました。しかし、

黒岩亜純（報告）「親ロシア派の地域へと向かっています。ウクライナがわから親ロシア派の地域までは 3 キロありますけれどもここからいくつもの検問所を通らなければなりません、ここからは撮影禁止です。」

ナレ「いくつもの検問を通り、親ロシア派の支配地域に入ると高圧線の鉄塔は砲撃によりへし折れていました。ドネツク市内中心部に入ると町は平穏に見えますが、郊外へ行くと状況は一変します。住宅街はおびただしい数の砲撃で破壊され、新しかった空港は壊滅状態です。」 "

"報告「銃声が聞こえます。銃声が聞こえます。」

ナレ「停戦合意はあるものの、郊外ではいままお、ウクライナ軍と親ロシア派の間で散発的な衝撃が続いています、夜になると停戦監視用のカメラをかいくぐり戦闘が続くこともあります。この状況のもとで地下シェルターで暮らす人達があります。旧ソビエト時代に核戦争を想定して作られた私説を訪ねてみるとそこには 5 年近く生活してきた人たちが 10 人ほどいました。室内は暖房もなく気温 3~4 度と凍える寒さですが、それでもここに住み続けるのは住居を失ったからです。」 "

ベーラ・ティモフェーバさん（地下シェルターに住む）「自宅は 2015 年に完全に破壊されました。住んでいたとおりの 7~8 割の住宅が破壊されました。」

ナレ「仕事を探しても 5 年前と比べ、見つけにくくなったといい、頼りにしていた支援者からの食料の差し入れも時間とともに減っていきました。」

アオンドレイ・ダシコフスキーさん（ちかしえるたーにすむ）「(暮らしは) とても厳しいです、市場での値段はジャガイモさえも買うことが不可能なぐらいの物価です。」

ナレ「ウクライナ危機から 5 年地下シェルターの住民たちは今、何を思うのでしょうか。」

"ベーラ・ティモフェーバ「(ウクライナの) 新大統領が平和回復に向けた t 措置をとること、それが我々の最大の望みです。」

ナレ「ウクライナ軍と親ロシア派の衝突はいつ集結するのか今はただ耐え忍び、今度の大統領選でなにかが変わることを今はただ祈るしかありません。」 "

このトピックに当てられた時間は 200 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・北朝鮮の自然博物館：結論→特に問題なし

北朝鮮の平壤市内の自然博物館が日本の報道陣に公開されたとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 70 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・リビアの政情不安：結論→特に問題なし

北アフリカのリビアは首都トリポリがある西側の暫定政府と東側の都市ベンガジを支配下に置く軍事組織リビア国民軍が対立する分断状態が続いている中、リビア国民軍の部隊が西側のトリポリへ進軍し軍事的な衝突に発展する可能性が出てきているとのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 70 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】外国人材をどう活かすのか：結論→やや問題あり

外国人材についての特集が取り上げられていた。

膳場キャスターの「特集です。今月から改正入管難民法が施行され、外国人の受け入れが拡大されます。」というコメントに対して金平キャスターが「国会で十分な議論を経ずに成立したといわれる批判も多かった改正法。外国人材の受け入れは現場でどのように変わのでしょうか。」と応答するやり取りを導入に以下に朱記したVTRが取り上げられていた。

【VTR1】

ナレ「東京、江東区。午前1時。煌々と明かりがついているのは、人形町、今半の弁当工場だ。」

ナレ「中では、弁当のおかずを作るライン作業が行われていた。従業員400人のうち、160人が外国人だ。」

"外国人従業員「ミャンマーから。」

外国人従業員「フィリピンです。」

記者「フィリピン？」

外国人従業員「はい」"

ナレ「夜勤で、働いているのは、ほとんどが外国人で、毎晩、2500個の弁当を作っている。4年前にベトナムから来日し、専門学校を卒業したばかりのバンさん。去年6月からこの工場で働きはじめた。」

"記者「きれいに作るためにどういうところを気を付けていますか？」

ド・ヴァン・バンさん「粉を全部ナスに着けるように」

"

ナレ「午後10時から、午前6時まで、週4日勤務。勉強熱心で、同僚からの信頼も厚い。」

バンさんの同僚チュさん「バンさんは仕事早いし、日本語もできるし。わからない時はバンさん来て、すぐ教えます。」

ナレ「今月、施行された改正入管難民法。これまで単純労働とされてきた分野でも、外国人の就労が可能になった。新たな在留資格、特定技能により、外国人は、人手不足が深刻な、介護、農業、外食など、14業種で、最長、5年働くことができる。この資格を得るには、日本語能力と、専門技能の筆記試験に合格しなければならない。休憩中に夜食をとるバンさんも、今月下旬に初めて行われる特定技能試験に挑戦する予定だという。

バンさん「勉強してますね。『今半』で仕事をまだ続けたいですから。特定技能一番いいと思います。」

ナレ「バンさんが手にしているのは、特定技能試験のテキスト。外国人にもわかりやすく、感じに全てフリガナが振ってある。」

"バンさん「試験の問題が分からないから、それがちょっと心配」

記者「将来の夢は？」

バンさん「将来の夢？まだ料理を作る。コックになりたいです。」"

ナレ「特定技能を取得した外国人に対し、企業側は、日本人と同等の給与を保証しなければならない。それでも優秀な人材の確保につながると期待する。」

人形町今半フーズプラント調理課 木下達哉課長「特定ビザを取ることによって、次から入ってくる新しいアルバイトの子も、やっぱりそれを目標に頑張ってもらえれば、なんていうんですかね、目標があるんで、皆さん長く続くのではないかと。思っています。」

【VTR2】

膳場「特定技能の説明会が今日行われるんですけど、介護分野の説明会が一日に4回、開かれるということなん

ですけれども、すでに全ての回が満席、満員ということで、関心の高さがうかがえます。」

ナレ「特定技能の在留資格が認められた14業種の中で、最も人数が多いのは、介護業界だ。今後5年間で、最大6万人の受け入れが見込まれている。」

東京の事業者「介護は特にですね、あの、介護以外の他業種、もしくは、他国との競争の中で、選んでもらわなければならないということを非常に強く感じますので、」

ナレ「その一方で、多くの事業者が口をそろえるのは、」

千葉の事業者「一番はやっぱり日本語。のコミュニケーションですよ。介護の仕事はやはり、対人コミュニケーションなので、やっぱりそこがどれだけ、できるか」

ナレ「介護施設で働く外国人は、言葉の壁にどう向き合っているのか？」

"介護士「イヤミさーん。今年何歳？」

入所者「えっ？」

介護士「今年何歳？」

入所者「100歳よね。」

入居者「100歳？100歳だってよ。」"

ナレ「24歳のタオさん。去年8月にベトナムとのEPA、経済連携協定に基づく事業で来日した。実務経験を積みながら、介護福祉士の資格を取ろうとしている。」

"女性「お友達でね、」

タオさん「トモダチ？」

女性「毎日お友達をしています。厄介になってます。

記者「タオさんどんな人ですか？」

女性「娘です。一生懸命お世話して下さる。涙が出ます。女の子がいないもんだから、」"

ナレ「ベトナムでは、看護師の専門学校と、日本語学校を卒業したタオさん。」

タオさん。「困ることは、まだ日本語がまだ上手じゃないんですけども、ですから、利用者さんとうまく話せない。」

"ナレ「インタビュー中には、こんな場面も。」

記者「日本に来るのは、どんな時に決めたんですか？」

タオさん「決め？」

記者「決めた。えーと日本に来ようと思ったのは？」

タオさん「こよう？」"

ナレ「タオさんは、日本語能力試験で、日常的な日本語をある程度理解できるというレベルだ。新設される特定技能は、これより市田下の、N4レベルが合格ラインになった。」

"職員「それはここで大丈夫。ここにさんのかゆが、ここに」

ナレ「昼食の時間、配膳には日本人の先輩職員がサポートにあたる。様々な体調の利用者がいるため、食事の柔らかさなどが細かく指定されている。間違えれば命にもかかわる。」"

"リーダー石渡 聡美さん「飲み込みでもししたら、詰まらせちゃったりとか、気管のほうに入ってしまった、おいおい誤嚥性肺炎とかになってしまったりとかいう危険があるので、いちおう、こうチェックはするんですけど、私のところは半分がショートステイなので、日々、違う人が来るので、ちえくしてから出さないと、」

記者「大丈夫そうでした？」

石渡さん「大丈夫そうです。タオさんが分かる日本語をチョイスして、選んだりとかしています。あとはもうわ

からない時は、実際やりながら、こうだよって教えたりとか。」

ナレ「この施設では、現在、介護職員 45 人中、4 人が外国人だ。施設側は、彼女たちのために、勉強部屋を用意し、週に 1, 2 回、業務時間内の学習時間を設けた。日本語教育の教師も雇って、学習をフォローしている。」

林房吉施設長「同じ職場の同じ、人として、働く環境をどう言う風に整えて、しっかり働いてもらうかと、いうところまで考えがないと、定着とか、働きやすい職場には、なっていないと思います。」

ナレ「タオさんの在留期間は 4 年、その間に、介護福祉士の試験に合格すれば、永住への道も開けるが、昨年度の合格率は、46%だった。不合格になると、帰国しなければならない。今月スタートした特定技能の在留資格を取得すれば、さらに 5 年の滞在が認められ、試験を受けるチャンスも増える。」

林施設長「できたら、5 年ね、資格を取って 5 年いてくれたら、まあ今日本が抱えてる人材不足、にしっかり対応できていくのかなあとと思いますね。」

ナレ「移民政策に詳しい、日本国際交流センターのめんじゅとしひろ執行理事はこう指摘する。」

日本国際交流センター毛受敏浩執行理事「平成の間にもう 160 万人くらい増えているんです。ようはまあ 30 年間の間、一世代の間に外国人増えてきたわけですけども、この間政府は何もしてこなかったんですね。」

ナレ「その結果、来日した外国人には、日本語などの能力格差が生まれた。法改正がなされた今も、特定技能試験のために、日本語研修をどこまでやるかは、企業や自治体の裁量にゆだねられている。

金平「その外国人していくってためにはですね、何が一番必要だというように思われますか？」

毛受執行理事「多文化共生が一部ですごく進んだところとですね、地方とかまだ全然まだ、外国人がほぼいないところで、何もやってないところの格差がものすごいある。で、そういう意味で、全国的なある程度スタンダードを作っていないと、だから進んでいるところの自治体のノウハウを地方にですね、これを伝えていくような仕組みを作っていないとですね。」

金平「スタンダードを作る主体はどこですか？」

毛受理事「それはやっぱり国だと思います。」

ナレ「山口県周南市にあるビルメンテナンス会社。19 歳から 27 歳のベトナム人技能実習生、13 人が働いている。途上国の若者たちを受け入れ、日本の技術を学んでもらうために導入された外国人技能実習制度。国際貢献が本来の目的だが、実習生たちは、労働力が不足する現場を補うための、戦力になっているのが実情だ。」

ナレ「今回の改正入管法で、あたりに設けられた在留資格。特定技能は技能十種制度に比べ、待遇がよく、同業他社への転職も可能だ。そのため地方の企業は、技能実習生たちが、特定技能へと移行し、賃金の高い都心の会社へ移ってしまうことを懸念している。」

ビークルーエッセ金澤芳幸取締役「残ってもらうためには、それなりの給料も出さなければいけないのかな。ということもあります。でただ、本音とすると、やはり長く当社に勤めてほしいっていうことがあって、特定技能に移行した場合でも、もう 5 年、当社に勤めていただきたい。という思いはすごくあります。」

ナレ「21 歳のフェンさん。ベトナムの田舎町で、薬局を営む両親の生活を楽にさせたいという思いから、母国で 5 カ月間日本語を学び、去年 6 月、技能実習生としてこの会社に入った。」

フェンさん「間違えるところが多いです。でも、今皆さんやさしくて、ゆっくり教えてもらえましたから、いままでだいたいできました。」

ナレ「仕事は、ビルの清掃。週五日、一日 7 時間働いて、てどり 13 万円になる。そのうち半分以上は、両親に仕送りしているという。」

フェンさん「私の希望は、お金を稼いで、家族を手伝ってしたい。一番できるのは、お金」

ナレ「この会社では、技能実習生たちになるべくながく働いてもらうため、様々な取り組みを行っている。」

"フエンさん「たくさんまんじゅうかって、まさきさんのいえに向かえました」

ナレ「月に2回の日本語研修、日常会話に加え、仕事に使う道具の名前など、日本語教育担当の社員が教えている。」"

"社員「これは？」

フエンさん「毎日挟めるけど、」

社員「毎日見てるだろ？これはだめだよ知らないと。」

フエンさん「しってますー」

社員「コンセント」

フエンさん「あぁー、そうですね」"

ビークルーエッセ若林健さん「まず、日本のことを好きになってもらう。日本で生活することが、とっても楽しいと思ってもらいたい。ここで一生懸命日本語を覚えることによって従業員ともいい人間関係ができますし、将来彼女たちが、ベトナムへ帰った時に、いい収入が得られる仕事が、たくさんあると思う」

"社員「お邪魔しまーす。」

ナレ「フエンさんは、このアパートで、ベトナム人技能実習生二人と、共同生活をしている。家賃は会社が半分負担。家具や、電化製品も会社が取りそろえた。」"

フエンさん「このお米は会社から米をいただきました。会社の人は優しいです。」

ナレ「壁には、会社の人たちと映った写真が一面に張られている。中でもこの写真は、特別だという。」

フエンさん「社長さんと、実習生、一緒に写真を撮りましたから。」

ナレ「社内懇親会の写真。実習生たちが着ているスーツは、会社が作ってくれた。」

"フエンさん「一緒にご飯を食べて、一緒に話して、それから私、自分の考えて、私たちが日本人になれましたね。ハハハハハ」

フエンさんたち「いただきます」"

ナレ「この日は、いつも生活の面倒を見てくれている上司をまねき、ベトナム料理をふるまった。」

フエンさん「これは、ワリタル。」

上司「気持ちが結構入ってますね。同じ」

フエンさん「生活は、いっぱい教えてもらえました。」

"ビークルーエッセ渡邊安恵さん「もう気持ちだけで、つなぎ留めたいという感じですけども、もう後は自分たちが決めることなので、はい。いてね。日本にうちの会社に来てくださいね。」

フエンさん「頑張ります」"

VTR をうけて、スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

膳場「介護事業者の方、取材したんですけども、高齢者が増えていく中、せつかく施設を作っても、介護の担い手、人材が足りないために、入所者を絞んなきゃいけないなど、どの施設でも、人材不足が大きな課題になっていまして、だからこそ、この特定技能の制度には、大きな期待があるようでした。一方で、特定技能の資格っていうのは、職歴や学歴が問われなくて、筆記試験に合格しさえすれば、得られる資格なんです。ですので、介護の現場でも、はたして即戦力として頼れるのか、未知数だという声も多かったです。」

日下部「あの一日本の政府のね、外国人受け入れ政策は、どうもこう韓国や、台湾などに比べると、周回遅れという感があるんですね。あの一その政策の土台にあるのは、外国人を安い労働力として捉えて、それを受け入れるためのどの対症療法的なね、ものような気がします。ただ、アジアの国もね、どんどんどんどんますます豊かになっていますから、いつまでも、こう労働力としてではなくですね、ともに働く人間としてね、受け入れな

ければだめだと思うんですね。まあ日本を舞台に活躍する人たちに来てもらう。政府が積極的に発想を転換していかないと、求めても、日本に来てもらえない状況になってしまうんじゃないかと、心配してます。」

金平「まったくそのとおりだと思いますね。あの毛愛さんにお話をお伺いしたんですけども、日下部さんの言うように、一番大事なことというのは、労働力を受け入れするんじゃなくて、生身の人間の人に来てですね、その人たちと共生していく、ともに生きていくというね、そこを忘れてしまうとだめだとおもうんですけど。その、政府は移民政策ではないと言っていますよね。ただ今度の改正で結果的には、国のありようとかね、そういうのやっぱり変わらざるを得ないなという感じしますけれども、せつかくですから来てもらう。使うほうじゃなくて、来てもらう人たちに希望が広がるような方向に行けばいいですね。」

この特集に当てられた時間は 1207 秒だった。

日下部キャスターがスタジオでは「政策の土台にあるのは、外国人を安い労働力として捉えて、それを受け入れるためのどの対症療法的なね、もののような気がします。」とコメントしていたが、実際の日本の政府の方針としては単純労働者の受け入れは認めておらず、また外国人労働者の処遇についても日本人並の給与水準という方針を出していることから「政策の土台にあるのは、外国人を安い労働力として捉えて、それを受け入れるためのどの対症療法」とは言えないはずである。実際には、安価な労働力として捉えるという方針を土台としていないにもかかわらず、いかにもそうであるかのようなコメントをするというのは放送法第四条一項三号の「報道は事実をまげないですること」に照らしてもやや問題であると言える。

・【特集】豚コレラ～感染拡大の実態

豚コレラの感染について特集され、VTR では以下に朱記したように取り上げられていた。

【VTR,1】

膳場「では、次の特集です。岐阜県や愛知県などで感染が広がっている豚コレラ。これまですでに 6 万 5 千頭以上の豚が、殺処分されましたが、収束のめどはたっていません。切り札ともいえる豚へのワクチン接種の可能性、そして迫りくる新たな家畜伝染病の脅威を取材しました。」

ナレ「岐阜県山県市の山の中。地元の猟師たちが、奥へと入っていく。地面に穴を掘り、四角い塊を投げ入れる。塊は野生のイノシシ向けの餌。その中にはプラスチックの容器に、液状の薬が入っている。岐阜や愛知で感染が広がりつづける家畜伝染病豚コレラ対策として、ワクチンを投与しているのだ。」

"岐阜県猟友会山県支部の猟師「何か所かは、うまくいくとは思いますが。」

岐阜県猟友会山県支部の猟師「なんとか成功させたいけどね。やってみないとわからんとね。これは」"

ナレ「養豚業にとって、大きな脅威となっている豚コレラ。その現場を取材した。」

ナレ「始まりは、去年の夏、岐阜市の養豚場で、つぎつぎ豚が死に始めた。詳しく検査すると、」

岐阜県 古田肇知事「豚コレラっていうのは、我が国としては、平成 4 年以降ということですから、26 年ぶりということになるわけですが」

ナレ「日本では、26 年ぶりとなる豚コレラの感染を確認。養豚業者の間に衝撃が走った。ウイルスによって広がるこの家畜伝染病は、豚やイノシシに特有の病気だ。40 度以上の発熱や、体に紫斑ができるなどの症状を引き起こし、ほとんどの豚が、2 週間ほどで死ぬ高い致死率が特徴だ。」

ナレ「豚の唾液やふんなどに触れることで、うつり、感染力が非常に強い。豚コレラウイルスは、70 度以上の熱処理をしないと、死滅せず、冷凍肉でも数年間、感染力を失わなかった例もある。」

ナレ「人にはうつらず、感染した肉を食べても、健康上の問題は無いが、養豚業者にとっては、甚大な被害をもたらす深刻な病気だ。」

ナレ「養豚場だけでなく、岐阜市が管理する畜産センター公園で、岐阜県畜産センター研究所でも、感染が確認された。豚コレラは、感染した豚が一头でも確認されると、養豚場のすべての豚を殺処分することが、法律で義務付けられている。」

ナレ「去年 12 月、岐阜県関市の養豚場でも、感染が確認され、八千頭近い豚の殺処分のため、自衛隊が出動した。1 頭 100 キロ近い豚を多いときは、1 0 0 0 頭以上殺処分して埋める大掛かりな作業になるため、自治体だけでは手に負えない。出動は災害派遣要請によるものだった。」

ナレ「防護服を着た愛知県の職員が続々と養豚場に入っていきます。これから 6000 頭を超える豚が殺処分されます。」

んばれ「岐阜を皮切りに、愛知、長野、大阪、滋賀と 5 府県、およそ 40 の農場で、次々に感染が確認され、全ての豚が殺処分された。その数は、6 万 5000 頭以上におよぶ。」

ナレ「感染が確認された養豚業者は・・・」

養豚農家「いろんな癖とか、わかってるやつなんで、それが一瞬で動かなくなるその瞬間っていうのは、ほんとにむごいというか、本当に申し訳ないことをしたなあっていう感じで。」

養豚農家「再開できる日程ももう本当に、目途が立たない状況で、本当、先が見えない」

ナレ「豚を殺処分した農家には、国から一定の補償金が出ることになっているが、支払いは進んでおらず、収入が絶たれた状態では、事業の立て直しも難しい。」

ナレ「豚コレラ感染拡大の一因とみられるのは、野生のイノシシだ。実は、豚コレラで死んだ野生のイノシシが岐阜と愛知で次々に見つかっている。感染したイノシシが歩き回り、ウイルスをばらまいていると、考えられているのだ。イノシシ対策として、岐阜や愛知の山などで、合わせて 1 5 0 キロにわたって、防護柵が設置された。また養豚場周辺の道路の消毒や罠による捕獲が行われているが、感染したイノシシは養豚場周辺を中心に、3 0 0 頭近く。岐阜県が調べたイノシシのうち、3 割ほどが感染していて、その数は今も増え続けている。」

ナレ「猟師歴 3 5 年の、白井勝義さん。イノシシ肉などを扱うジビエ販売店を去年立ち上げたばかりだが、豚コレラの感染拡大に不安を隠せない。」

白井さん「立ち上げる前の肉で今、つないどるんですけど、どっちにしても、豚コレラのイメージがきついもので、もう本当、肉、猪肉は売れないし、ジビエのイメージなんか、がくと下がってる」

ナレ「イノシシが、媒介したとみられる豚コレラ。対策として、農水省が導入したのは、ドイツで開発されたこのエサ型ワクチンだ。」

記者「匂いはですね、フルーツのような甘い匂いがします。」

ナレ「トウモロコシの粉などで、ワクチンの入った容器を包んである。これを山に巻いて、野生のイノシシに食べさせ、感染を防ぐ計画だ。」

ナレ「この日、猟師らに説明したドイツの専門家は、効果が出るには、時間がかかると強調した。」

ドイツのワクチンメーカー IDT エイドリアン・フォスさん（吹替）「このワクチンは素早く状況をコントロールするのに有益だと思いますが、魔法のような効果があるわけではありません。豚だけではなく、野生のイノシシにも効くということはわかっていますが、1 回ワクチンをまけば、2 週間後にすべてが解決するわけではないのです。もう少し時間はかかりますよ。」

ナレ「ドイツや、フランスでは、これで封じ込めに成功した実績もあるが、効果が出るまでに数年から、1 0 年ほどかかっている。それでも日本は数少ない有効な手段として、採用したのだ。」

ナレ「先月末、愛知県と岐阜県の山中で、ワクチンの散布が始まった。ジビエ販売店を営む猟師の白井さんも参加していた。」

臼井さん「はい。3685なし。今日のワクチン散布は今日はこれで終わりで、」

ナレ「散布の翌日、確認に行くと、」

臼井さん「ワクチンない。ない。」

参加者「もっと下のほうちゃう？」

臼井さん「ちゃうちゃうワクチンない。」

臼井さん「ここもない。食ってもうたんやろうか。」

ナレ「餌を食べたとみられるワクチンの容器の残骸も見つかった。先月までに、岐阜、愛知でおよそ3万個が散布され、6、7割に食べた形跡があった。今後、長期にわたり、山の中にワクチン入りの餌が散布される。」

ナレ「一方、岐阜や愛知の養豚業者からは、地域限定でもいいので、イノシシだけでなく、飼育している豚に直接ワクチンを打ってほしいという声が上がっている。」

ナレ「実は、10数年前まで、日本では当たり前、豚へのワクチン接種が行われていたのだ。」

昔のナレーション「豚に対する病原性を全くなくした日本独特の豚コレラ生ワクチンを完成させた。」

ナレ「これは日本獣医師会が半世紀前の1969年に作った記録映画だ。」

記録映画「次にワクチン原液について、無菌試験。ウイルス濃度測定。同定試験。マーカーテスト。ウイルス迷入試験を行い、さらに豚を用いて、安全性と効力を確かめる。」

ナレ「国内に蔓延していた豚コレラを食い止めるため、ワクチンを開発する国家プロジェクト。その中心にいたのが、北海道大学の清水悠紀臣教授だ。」

清水教授「昭和30年前後から、急に豚の数ががっとう増えているんですね。ということはですね。それとともにこの豚コレラもね、その一数が多くなってね。」

ナレ「戦後、日本では、肉を食べる習慣が広がって養豚業が盛んになり、それとともに、豚コレラが蔓延した。」

清水教授「ええまあだいたい、一千頭ぐらい毎年、一千頭以上発生している状態で、時にはね、1万頭以上」

ナレ「その対策として、1950年代に、ワクチンの開発をはじめ、1969年、国内すべての豚へ、ワクチン接種が開始された。」

んばれ「これで、感染数は激減。1992年、熊本での発生を最後に豚コレラの制圧に成功した。」

清水教授「使い始めたら、やっぱりガタガタと減ってきましたから。それはうれしかったですね。」

ナレ「しかし、2006年、国の方針でワクチン接種は全面中止となる。」

清水教授「少なくとも、アメリカとか、イギリスとかEUのきれいなところには輸出できない。」

ナレ「実は、豚にワクチン接種を行っている国は、国際的に豚コレラの発生国とみなされ、豚肉の輸出が制限されるのだ。年間40億円というワクチン接種にかかるコストも、思い財政負担となっていた。26年ぶりに発生し、感染が広がる豚コレラ。岐阜県山県市で、二つの養豚場を経営する橋枝浩さんは、豚へのワクチン接種再開が必要だと訴える。」

橋枝浩さん「野生のイノシシがいなくなるまでに、この辺の豚屋さんはなくなってもいいやって言う風に、国に思われてるのかなーと思ってます。もう捨てられたのかなあと。」

橋枝浩さん「20年から30年くらいかなずっと日本で打ち続けたワクチン。そんな安全な良いワクチンがあるのに、なぜ使わせてくれないのか。」

ナレ「農水省は国際的な信用が低下し、年間およそ10億円の豚肉の輸出が制限されることを懸念。豚へのワクチン接種について、消極的だ。」

農水省小里康弘副大臣「豚にワクチンを打つということは、なるべく避けていきたいというのが、まあ全養豚農家の共通した認識であろう。飼養衛生管理基準をしっかりと守っていく。これが基本であります。」

ナレ「養豚農家に衛生管理を徹底させることで、感染を防ぐ方針だが、農水省のいう豚コレラを防ぐような衛生管理はどこまで可能なのか。」

ナレ「豚の飼育頭数が全国 2 番目の宮崎県。ここで養豚場を経営する香川正彦さんは、日本養豚協会の会長だ。」
日本養豚協会香川雅彦会長「それを守ろうとみんな努力しているんだけど、できることと、できないことというのは、やっぱり人的な問題、物的な問題、まあそのお金の問題もあるわけだから、その辺はやっぱりこれを 100%守っていないからどうだっていう話じゃなくて、やっぱり守るために国のほうにもお願いして、やっぱりそういうその援助なり、助けてもらわないと、」

ナレ「香川さん自身、9 年前に宮崎での口蹄疫の流行で、飼育していた豚を殺処分した経験がある。」

香川会長「なかなか、飼養衛生管理基準全て 100 点満点で守れる農場ってのは、それはもう、全国でも、本当ごく一部の農家しかいないと思います。うん。」

ナレ「香川さんは、完全な衛生管理は難しいとして、岐阜や愛知の養豚業者が、ワクチン接種を切望することについて、理解を示す。ただ、業界全体で判断するには、大きなハードルがあるという。」

香川会長「ワクチンを打った豚肉を流通することができるのか、またそれを消費者の皆さんが理解をして買っただけなのかっていう部分。まあここがね、一番大きな問題。それがクリアできるのなら、もうワクチンを打ってもらって、もうそろそろ考える時期に来ているのかなって感じているっていう」

ナレ「一方、50 年前に豚コレラワクチンを開発した清水教授。豚にワクチンを打つと、ワクチンで抗体ができたのか、豚コレラに感染して抗体ができたのか、見分けがつかないため、地域限定のワクチン接種については、否定的だ。」

清水教授「どれが感染していて、どれが感染していないかっていうことが分かんないですよ。豚の流通ってことから考えるとね、岐阜だけで流通させてるってことではないと思うんですよ。ええ。そうすると、ワクチンを打った打たないのね、えー豚が流通することになりますから、それはさっき言ったように、診断だとか、防疫を混乱させるだけでしょ。」

ナレ「こうした中、先月 23 日、豚へのワクチン接種を望んでいた岐阜県山県市の橋枝浩さんの養豚場で豚コレラが発生。3000 頭以上の豚が殺処分となった。」

ナレ「橋枝さんの養豚場で、感染が拡大されたことについて、大臣は記者会見で、こう指摘した。」

吉川貴盛農林水産相「私が今回大変残念だなど思いましたのは、3 月 5 日に指摘した点のうち、野生動物の侵入防止、衛生管理区域や豚舎内における専用の衣服、長靴について、改善されていなかったことが確認されております。」

ナレ「先月 5 日、国や県は橋枝さんの養豚場に調査に入り、衛生管理基準は、おおむね満たされているとしながらも、一部の対策について、不備を指摘していた。橋枝さんもすぐに対策をとっていたというが、」

橋枝さん「それも対応した途端に発生してしまったというのが、現状で、やれることは本当に一生懸命やっているのに、なぜあんたが悪いみたいな言い方をされないかなのかなあと。周りの菌レベルが上がってしまえば、もう防ぎようがないんじゃないですかね。いくらがんばらたって。絶対もうワクチンしか止められないと思います。」

ナレ「殺処分が終わった橋枝さんの豚舎は、静まり返っていた。」

映像・橋枝さん「豚舎です。静かです。何もいません。」

ナレ「豚へのワクチン接種に慎重な姿勢を崩さない農水省。実は国内の豚コレラ豚コレラ以外に別の脅威がすぐそばに迫っている。」

【VTR,2】

ナレ「日本に迫りくる新たな家畜伝染病の脅威とは、なんなのか。中国福建省で撮影された映像。膨大な数の豚

の死骸が並ぶ。中国では、去年夏から、アフリカ豚コレラという病気が蔓延している。症状は豚コレラに似ているが、ウイルスの遺伝子が異なる全く別の病気だ。致死率はほぼ100%感染力も豚コレラよりはるかに強い。最大の問題は、有効なワクチンが存在しないことだ。中国では、殺処分をすでに100万頭近くに及んでいる。人には映らないが、被害は甚大だ。」

ナレ「中国の養豚事情に詳しい、研究者はこう指摘する。」

阮蔚理事研究員「養豚生産者は要するにこのアフリカ産コレラと聞くと、怖くてみんな出荷するんですね。去年がすごく出荷されているんです。実は感染されているんですけども、それで出荷されているのが、相当数あるという話です。」

警官「お肉が使われている食品をお持ちの方は、動物検査機関で検査をお受けください。」

ナレ「国内の各空港では、現在、アフリカ豚コレラを警戒し、海外からくる観光客に、肉製品などの持ち込みを禁止している。そして今週、新たな事実が明らかになった。」

吉川農水相「感染力を持つアフリカ豚コレラウイルスが、我が国の水際まで到達していたことが、明らかになりました。」

ナレ「今年一月、中国から中部空港に持ち込まれた豚肉ソーセージを検査したところ、感染力のある状態のアフリカ豚コレラウイルスが初めて見つかったのだ。」

農水省動物検疫所中部空港支所 鳥山真由美さん「検疫探知犬の方で、強化ということで、中部空港では、10月から土日もしていますし、あと、探知時間の強化も行っています。病原性のある肉・肉製品をとにかく持ち込ませないこと。それを皆さんに周知徹底していくことが重要だと思っています。」

農水省 動物衛生課 沖田賢治国際衛生対策室長「世界中が、やはりアフリカ豚コレラの今の広がりを見て危機感をもって対応しているその中で日本もまさに隣の国で発生しているということですので、侵入するリスクは高いと考えながら、対策を日々取っているところです。」

ナレ「家畜の伝染病を研究する北海道大学の追田義博教授。農水省が豚へのワクチン接種に慎重なのは、このアフリカ豚コレラへの警戒もあるためだと、指摘する。」

追田教授「アフリカ豚コレラは最後の困った時の切り札の頼るすべである。ワクチンが世界中がどこを探してもないので、それを考えると、来たるべきアフリカ産豚コレラ問題のことを考えると、やっぱり、衛生管理の徹底をしっかりとくことが大事なことだと、思いますね。豚コレラ対策をきっちりやるということで、それは将来来であろう間違いなく来るんですけど、残念ながら、そのアフリカ豚コレラ対策につながるとは思いますね。」

VTR をうけてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返し広げられた。

膳場「取材した CBC テレビ横山記者です。あの豚コレラ問題っていうのは、養豚農家にとっては、死活問題ですよ。」

横山記者「はい。豚コレラが発生した養豚農家は、豚をすべて失い、収入をすべて絶たれた状態が続いていて、悲痛な声を上げています。そして周辺の養豚農家は、一刻も早いワクチンを求めています。目に見えないウイルスにおびえながら、緊張感をもって対策に取り組んでいるんですが、国が求めている衛生管理の徹底には費用もかさむため、どの養豚農家も疲弊しているというのが現状です。一方で農水省は、衛生管理を守れば、感染は防げるという立場をとっていて、守っていない農家には、報奨金の額を減らす考えさえ、あるようなんです。ここに養豚農家と国との温度差を感じました。」

日下部「どうして政府はそこまで、ワクチン接種に消極的なんでしょうね。」

横山記者「その背景の1つには、関税の撤廃。をする TPP があります。TPP の発行で国は、農林水産物や食品の輸出額を今年、1兆円にする目標を掲げていますが、ワクチンを使うと豚コレラ発生国となり、豚肉の輸出が

制限される恐れがあるんです。このためワクチンを避けたい。そういう考えもあるようです。さらにワクチンの接種によって、養豚農家が安心することで、衛生管理がおろそかになってしまう。そうすると、アフリカ豚コレラが上陸したら、蔓延を招きかねないという心配もあります。」

金平「そのね、アフリカ豚コレラですけど、強烈な新たな脅威だというふうに思いますけど、」

横山記者「アフリカ豚コレラは、中国だけではなく、モンゴル、ベトナム、カンボジアでも広がっています。このアフリカ豚コレラは人間にうつらず、感染した肉を食べても影響はないんですけども、ワクチンがないため、豚の感染が始まれば、食い止めることは難しいと専門家は指摘しています。国内う養豚業に甚大な影響を与える恐れもあるため、水際での対策強化が求められています。また今月末には、大型連休もありますので、私たちは、海外から豚肉の製品、肉製品を持ち込まない。持ち帰らないようにすると意識することも大切だと思います。」

膳場「以上特集でした」

この特集に当てられた時間は 1657 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・【特集】外国人材をどう活かすのか：結論→やや問題あり

日下部キャスターがスタジオでは「政策の土台にあるのは、外国人を安い労働力として捉えて、それを受け入れるためのどの対症療法的なね、もののような気がします。」とコメントしていたが、実際の日本の政府の方針としては単純労働者の受け入れは認めておらず、また外国人労働者の処遇についても日本人並の給与水準という方針を出している。日下部キャスターの言うような「政策の土台にあるのは、外国人を安い労働力として捉えて、それを受け入れるため」であれば今回の政策では全く不十分である。

このように実際には、安価な労働力として捉えるという方針を土台としていないにもかかわらず、いかにもそうであるかのようなコメントをするというのは視聴者に対して誤った印象を与える恐れのあるものである。

検証者所感

・番組構成について

今回の特集は外国人材と豚コレラについてで、大阪の選挙については冒頭に触れられただけで特集で取り上げられることはなかった。どういったテーマを特集で取り上げるのかはテレビ局の裁量であると思うが、その選択には局側の見識が現れると言えるだろう。

大阪の政治情勢は自民党・公明党から旧民主党系そして社民党や共産党系まで含んだ全国政党と大阪維新という地域政党が激しく対立する選挙の構図、大阪維新の会の松井一郎氏に言わせると「自共共闘」という、国政からは考えられない異常な構図となっている。これは、大阪に特有の争点や論点があるからそのようになっているのだろうが、そうした点を深掘りするような特集が組まれていなかったのはいささか残念であった。これが沖縄の選挙の前日であるとか、原発が争点となりうる地域の選挙であれば、報道特集は特集を組んできたわけだが、大阪の選挙もこれらの争点に匹敵するほどの地域の特殊事情や地方自治のあり方を問うという全国的にも重要なテーマが問われているにもかかわらず、特集で取り上げられていなかったということから、報道特集は特集で取り上げるテーマをどういう基準で選んでいるのかが疑問に思った。まさか、金平キャスターの趣味で決めている、などということはないだろうとは信じたいが、沖縄への熱の入れようと今回の大阪選挙への取り上げ方の淡白さはかなり対照的だった。